

白川わくわくランド ニュース

第20号

発行
 ●白川流域住民交流センター
 (白川わくわくランド)
 〒860-0854
 熊本市東子飼町8-55
 TEL・FAX (096) 346-5454
 ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
 メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

「思ったよりきれいなんだ！白川の水！」 熊大付属小四年生の学習から

熊本大学付属小学校では、六月二十日、二十四日とクラスごとに、白川わくわくランドや近くの白川を教室に、半日間の学習を組まれました。国土交通省職員とわくわくランド職員がゲストティーチャー。

川に入つての水生生物調査を導入に、調査の結果を整理し、そこから「生きもの」「水」「食」

の関連を学習しました。白川周辺での食物連鎖もみる事で、白川で見かけた水生昆虫も川原のバッタ・ミミズ・チョウなども、コサギ、スズメなどの鳥たちも単独では生きていけないことに気づきました。

そして、川の中や河川敷の生きものたちに触れて「白川ってきれいなんだ」と実感したのです。

河川敷で水生生物調査



子供たちが見つけた川原周辺の生き物たち

- エンマコオロギ
- ショウリョウバッタ
- トノサマバッタ
- カワラバッタ
- モンシロチョウ
- キチョウ
- コサギ
- アオサギ
- スズメ
- カラス
- キジバト
- カエル
- アシナガバチ
- アリ
- カミキリムシ
- ミミズ
- ヒメジオン など

川の中で見つけた生き物たち



カワゲラ類 ヒゲナガカワトビゲラ類 ヒラタカゲロウ類



ヒラタドロムシ類 コオニヤンマ タニガワカゲロウ類



白川にいる水生生物を調べました。とんでもないほどいました。ヒゲナガカワトビゲラやヒラタカゲロウなどといった生物で水質検査をしました。白川って、きれいなほうだとわかってうれしかったです。

初めて白川に入りました。初めて知ったことだけど、川の中の石の裏にも、たくさん生き物がひっついてるんです。川の中では、生きものは泳いでいると思っていたのでびっくり！いろんなことを教えてもらい、いろんなことを知りました。水は大事に使おうと思いました。



白川の橋⑩ 安政橋

河口から数えて16番目の橋。橋長は109.10m。上下流に歩道がある。

この橋は古く、1601(慶長6)年の長六橋について1857年(安政4年巳の年)に架けられた。その年にちなみ安政橋、後に安巳(やすみ)橋とも呼ばれ、現在は両方の名称が使われている。

1900(明治33)年、多くの人的・物的被害を出した白川・緑川洪水で流失。その後、再架設され明治の末には安政橋から水前寺まで軽便鉄道も敷設された。

未曾有の被害を出した1953(昭和28)年の水害でも流失。現在の橋は、左岸側が従来より少し下流に橋台を設置してある。橋のライトや歩道に軽便鉄道や渡し船のデザインがあり、昔を偲ばせる。



全体



橋のライトに切り抜かれた軽便鉄道の絵

白川わくわくランド寺子屋 気象業務の今と未来

期 日 平成17年6月28日
講 師 熊本地方気象台 気象情報官 西辻 和也 氏
場 所 白川わくわくランド
参加者 18名

昨年は、国内外を問わず、台風、地震などの自然災害に多く見舞われ、自然の恐ろしさをいまさらにも感じました。このような災害に対する人々の関心が高まりつつある中、本年度のわくわく講座は「災害と防災」に焦点を当て学習する予定です。

その1回目として、まず、自然災害を発生させる気象について、熊本地方気象台から講師を迎えて学習しました。

くしくも、講座を実施した6月28日は、静止気象衛星「ヒマワリ6号」の観測開始の日でした。

気象観測

- レーダー観測**——レーダー観測とアメダスデータで補正し、より正確な面的雨の状態を知る
- 高層気象観測**——気圧・温度・湿度計を入れた風船を飛ばし、その追跡により風の流れ等を観測
- ウィンドプロファイラによる観測**——地上から真上に向かっての電波の跳ね返りにより風速・風向を知る
- 静止気象衛星による観測**——30分に1回の観測
- その他、海洋観測、高潮観測など

気象予報

雨の強さ

1時間降水量(ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ
10以上20未満	やや強い	ザーザーと降る
20以上30未満	強い雨	どしゃぶり
30以上50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る
50以上80未満	非常に激しい雨	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)
80以上	猛烈な雨	・息苦しくなるような圧迫感がある ・恐怖を感じる

風の強さ

平均風速(m・秒)	風圧(kg重/m ²)	予報用語	人への影響
10以上15未満	~11.3	やや強い	・風に向かって歩きにくくなる ・傘がさせない
15以上20未満	~20.0	強い風	・風に向かって歩けない ・転倒する人も出る
20以上25未満	~31.3	非常に強い風	・しっかりと身体を確保しないと転倒する
25以上30未満	~45.0	(暴風)	・立っていられない ・屋外での行動は危険
30以上	45.0~	強烈な風	

平成12年8月作成(平成14年1月一部改正)

当時は、見晴らしの良い場所に建てられ、公園化もされ、訪れる人々も多かったし、子どもの良い遊び場にもなっていたとあって、また、碑の先端には灯がともし、灯台になって海の安全を守っていたし、吹流しもあったらしい。

西に広く有明海が、見える空間ができ、訪れる人が増えることでのこの碑の意義が伝わることを楽しみにしている。



白川河口の権現山の中腹に建てられた潮害碑。昭和二年の台風による潮害に際し、後世の人々の警句がしたためられた碑であるが、昭和四年の建立から月日がたつうちに、関係者や地域の人から忘れ去られ、孟宗竹の林に包み込まれてしまっていた。

今年五月二十五日に整備活動が行われた。参加者は海上保安庁・熊本県庁・地域住民合わせて十七名。二十メートルにも伸びた何十本もの孟宗竹を電動のこぎりで切り取り、碑の上に積もった笹の葉を掃いた。敷地にある程度の青空が現れ、今日の作業を終了。



潮害碑に陽の光を!!

川の豆知識5 土石流

長雨や集中豪雨などによって土砂や岩石が一気に山の斜面を流れ下る現象。流れ下るスピードは想像以上に速く、時速50km以上になることもある。直径数メートルにも及ぶ岩石を軽々と動かすなどおそろしい破壊力をもっている。

現在、土石流の発生を的確に予測することは難しく、突如として起こることも多い。

2003年7月20日未明、水俣地方を襲った集中豪雨によって水俣川水系水川内川支流集川上流で斜面崩壊が起こり、流れ下った土石流が多くの人命・生命・財産等を奪ったことは、記憶に新しい。



白川わくわくランド寺子屋 市街地の白川沿いを歩く

期 日 平成17年5月14日(土)
講 師 津田 清幸先生(元中学校長)
参加者 23名



白川の下流域に広がる熊本市は、古来から川の恵と被害を受けてきました。流域に住んでいる人々は、良しにつけ悪しきにつけ、川と共に生きるための知恵と工夫を凝らしながら歴史を刻んできています。

その歴史や自然また近代の河川技術などを探索し、白川と共によりよく生きようとする姿を白川沿いから学びました。

今回は、一夜塘から銀座橋までを歩き、最後は水道町を通り熊本市現代美術館で解散でした。その間、94箇所に及び箇所・項目を学習しましたが、その一部を紹介します。

一夜塘(ども)

1796年の大水害直後に細川家10代斎茲(なりしげ)の督励で築造された堤防。わずか4ヶ月でできたことから一夜塘の名がついたという。1900(明治33)年と1953(昭和28)年の大洪水では濁流が塘を越えたが決壊は免れた。

子飼及び藤崎宮裏の障蓋(さぶた)

通常、川への降り口になっている所につけられていた石柱。石柱には溝が切られ、洪水時にはその間に蓋がはめ込まれ、住宅地や敷地への水の浸入を防いだ。子飼には現在、鋼鉄製の扉がついている。



水道丁の地名

江戸時代の屋敷町でしばしば大火があった。藩は、1707年立田小磧の上流から水路を造り、子養(こかい)~千反畑~水道丁~厩橋の下流で坪井川に落とす防火用水路を設置した。水道は1720年ごろ廃止された。

水道町にたつ標柱には「水道町の由来」として「この一帯は、加藤清正が熊本城の東側に開いた武家地の一つで、宝永四年(1707)頃、白川の小磧橋付近から、坪井川の厩橋付近まで防火用水路としての水道を引いたとき、現在の藤崎八幡宮参道付近からこの辺りに水路を通したことから、水道町の名が生まれました。今日では、国道三号線と電車通りが交差するなど、市内で最も交通量の多い区域の一つとなっています。」の説明がなされている。



大甲橋

最初の大甲橋は、市電敷設のため大正13年甲子(きのえね)の年に架設され、大甲橋と命名された。1953(昭和28)年の大水害では、7本の橋脚で支えられた鉄筋橋は流失しなかったが、左岸の橋脚が押し流され通行不能となった。昭和39年に架け替えられた現橋は、流木が引っかけないように高く造られたので兩岸は急坂となり、左岸にあった「新屋敷」電停はなくなった。大甲橋の橋柱の飾りは兜、電柱は槍、樹はイチョウである。

橋中央からは、緑に包まれた白川の流れや上流に立田山・明午橋が、下流に安巳橋・銀座橋がみえる。また、水道丁の渡し跡が両岸に残っている。



大井手橋



大井手は、渡鹿堰で白川から分水し川鶴、新屋敷の低地を流れ、九品寺の井手の口で再び白川に合流。新屋敷3丁目から一の井手、1丁目から二の井手と三の井手の用水路が分かれ、天明新川と加勢川に流下、市南部の水田を潤している。加藤清正は1605年から渡鹿堰を造り、この大井手川を引いたが、戦前までは川沿いに水車が多く設置され井手治いの人々の日常生活にも役立っていたという。

大井手川に架かる大井手橋は小さいながらもみごとな石橋である。明治35年5月修繕の橋柱があるが当時ここは交通・人通りの要所であったらしい。近くには、九品寺厄除地藏尊があり、旅人・往来人が安全を祈願したようで、今も地域の人に大事に守られている。



安巳橋・安政橋 白川わくわくランドニュース1面をご覧ください。